



KOBE BUSSAN CO., LTD.



平成 28 年 6 月 13 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 神 戸 物 産
 (コード番号：3038 東証第1部)
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 沼 田 博 和
 問 合 せ 先 経 営 企 画 部 門 部 門 長 坂 本 匡 浩
 TEL 079-496-6610

**平成 28 年 10 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と実績値との差異
 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ**

平成 27 年 12 月 15 日に公表いたしました平成 28 年 10 月期第 2 四半期(累計)業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 10 月期通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 10 月期第 2 四半期(累計)業績予想と実績値の差異

平成 28 年 10 月期第 2 四半期(累計)連結業績予想と実績値の差異 (平成 27 年 11 月 1 日～平成 28 年 4 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	119,800	4,600	4,600	2,600	99.48
今回実績(B)	119,014	5,030	2,868	1,021	39.07
増減額(B-A)	△785	430	△1,731	△1,578	—
増減率(%)	△0.7	9.4	△37.7	△60.7	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 10 月期第 2 四半期)	111,462	3,117	4,728	2,348	85.92

平成 28 年 10 月期第 2 四半期(累計)個別業績予想と実績値の差異 (平成 27 年 11 月 1 日～平成 28 年 4 月 30 日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	103,100	3,400	2,200	84.18
今回実績(B)	105,114	1,608	974	37.29
増減額(B-A)	2,014	△1,791	△1,225	—
増減率(%)	2.0	△52.7	△55.7	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 10 月期第 2 四半期)	97,153	3,852	2,373	86.83

*当社は平成 27 年 2 月 1 日及び平成 27 年 11 月 1 日付で普通株式 1 株につき 2 株の割合で株式分割を行っております。そのため、平成 27 年 10 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 平成 28 年 10 月期通期業績予想の修正

平成 28 年 10 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 27 年 11 月 1 日～平成 28 年 10 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	243,000	9,000	9,100	5,300	202.79
今回修正予想(B)	241,600	9,300	6,100	2,100	80.34
増減額(B-A)	△1,400	300	△3,000	△3,200	—
増減率(%)	△0.6	3.3	△33.0	△60.4	—
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 10 月期)	228,590	6,802	8,477	4,174	154.64

平成 28 年 10 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 27 年 11 月 1 日～平成 28 年 10 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	210,000	7,000	4,500	172.18
今回修正予想(B)	212,000	3,900	2,500	95.65
増減額(B-A)	2,000	△3,100	△2,000	—
増減率(%)	1.0	△44.3	△44.4	—
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 10 月期)	200,593	6,624	4,073	150.87

*当社は平成 27 年 2 月 1 日及び平成 27 年 11 月 1 日付で普通株式 1 株につき 2 株の割合で株式分割を行っております。そのため、平成 27 年 10 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり当期純利益を算定しております。

3. 差異及び業績予想修正の理由

当社の主力事業であります業務スーパー事業につきましては、老朽化した店舗のスクラップ&ビルドを積極的に行い、さらには新規出店が順調に推移したことから、2015 年 10 月末から 17 店舗増加し 730 店舗となりました。また、売上高につきましては、消費増税後に講じた施策により客数が増加し、海外直輸入商品やオリジナル商品の開発により客単価も増加したことで、商品出荷実績としては既存店で 104.8%、全店で 107.9%を達成するなど、順調に推移致しました。

利益面につきましては、為替市場が円高にシフトしたことによる輸入コストの低減、自社食品工場等のオリジナル商品が SNS 上で話題になるなどして販売が好調に推移したことにより、営業利益につきましては目標を上振れる形となりました。

一方で為替市場が当社想定レートよりかなり円高で推移したことにより、為替変動リスクのヘッジのために行っております為替予約等、一部のデリバティブ商品について、会計上の評価損が計上されたため、経常利益以下は目標を下回る形となり、これを受けて通期の見通しにつきましても修正いたしました。これらの評価損についてはあくまで為替レートの変動による時価評価であり、キャッシュアウトを伴うような損失ではございません。

以上のことから、第 2 四半期・通期の連結・単体業績予想につきまして、上記のとおり業績予想を修正いたします。

なお、配当予想につきましては、会計上の利益予想は修正したものの、キャッシュアウトを伴うものではないことや、当社の本質的な事業の成長は着実に数値として表れておりますことから、それらは日頃ご愛顧頂いておりますステークホルダーの皆様のご声援の賜物であると考えておりますので、1 株当たりの期末配当 40 円については修正致しておりません。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上